

【東京サンエス株式会社のロゴマーク】



現在少し加工してViVAのTシャツタグとして復活したSSSロゴ。初代ロゴが生まれる以前1980年代に、Sの文字を自転車で走る3名の集団に見立てて描かれたものです。



原寸幅が50cm程ある毛筆のTokyoは100点ほど書き上げた中から選ばれたそうです。



TOKYO SAN-ESU

中間のSは想像空間とし、初代ロゴを斬新にアレンジして、「決まりかけた」ロゴマーク。



帰路、電車で揺られながらその思いのたけを文字とカタチで描いた手帳の1ページ。



TOKYO SAN-ESU

自由に風を感じ気持ちよく前に進んで行く・・・そんなロゴマークとなりました。



<家紋風>

新ロゴが生まれる直前、OnebyESU JFF#701D フレーム用にSの文字を曲線のみから描き家紋風にデザインしたヘッドロゴを作りました。

ちなみにダウンチューブのメインロゴにも3本の線が入っています。



当社の前身は1927年に開業した坂井商店からスタートしました。「サンエス」と名乗ったのは1950年からとなります。「サンエス」の名称は、創業者「坂井金一」が1950年頃に類縁から譲り受けた商店名（関根清兵衛商店 Sekine Seibê Syôten）の頭文字「3つのS（エス）=SSS」がモチーフとなっています。

▶"S"はserviceやsafetyやspeed・・・など意味相性や語呂も良く、初代のロゴは現在の社名となった1962年から更に四半世紀を経過したMTBブーム渦の1990年に作られました。

1990年 初代ロゴが生まれる

▶このロゴは独自性にこだわるサンエススピリッツを表現すべく、ご縁あって某寺院の僧侶にお願いしたもので、SSSをマークであしらい、同業では見られなかった毛筆を使用したTOKYOを独特な形で描いています。このロゴで自転車界激動の30年を乗り切ってきた訳です。

そして、2020年に差し掛かる頃、新たなロゴマークを作り始めました…。

2020年 新たなロゴマークに継承される

▶そもそも30年間ともに歩んだロゴをこれからも使い続けるか、それとも変えるか…経営者が代替わりし落ち着いてきた頃に、会社を継続する上で考える項目の一つだったと思います。それが例え30年の節目でなくとも。

結果、見た目を変えようかな…と自然にふわっと思ったことが、後々自分の未熟さを身に沁みて思うことになったと、社長は振り返ります。

新たなロゴマークが決まりかけたが・・・

▶ご縁あって、あるデザイナーさんの作品に出会い、その多様性と奥深さに魅せられロゴマークの相談をしました。初代ロゴも取り入れた簡単なイメージだけを伝え数点作っていただいた中から選び、まずは初代を描いていただいた僧侶にロゴマークの変更をお伝えすべく遠路表敬訪問しました。

▶僧侶は差し出された新しいロゴマークを前に、優しくいくつかの言葉を投げかけました。

なかでも『自転車は自由で楽しいものですね？…風を感じる気持ちよさがいいんですね？』と、そんな何気ない一言にハッとしたと社長は言います。「ロゴマークを変えるということは見た目を変えるという簡単なことではないんだと。デザイナーさんが作って下さったデザインに乗っかっていただくと。自転車によって生かされている会社でありながら、ロゴマークにその思いを込められたのか？・・・帰りの電車内で思いのたけを込め、新たにラフを描きます。

思いを込めた新たなロゴが誕生

自己の未熟さとともにラフに込めた熱い思いを改めてデザイナーさんに説明をした結果、今のデザインが出来上がってきたのでした。

“創業93年の歴史とともに将来に臨み、

乗り方や乗る場所、年齢などで変化するそれぞれの快適、楽しさを見つける時の役に立ちたい”

- カタチ：ベースとなるSSSは風を感じながら右方向に進み、今まで守護神のごとき見守ってくれていた毛筆のTokyoは風のごとく雲のごとく爽やかに靡くイメージ。
- 色：多種多様なオリジナルブランド毎に色（特徴）があり、それらをまとめ生かせるような会社であり続けたいとの願いから、何にでも染まる白と何にも染まらない黒とした。
- TOKYOの文字：Oの字を車輪に見立て、SSSのロゴマークとともに右に進んでいるイメージを表現。

「新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年は、自転車が日々の暮らしの中で多くの人に見直され、その魅力を再認識しました。今回の題材である新しいロゴを最初に見た時、2005年に訪れた初めてのロングライドの地、ハワイ・ホノルルで感じた爽やかな風を思い出しました。誰もが安心して、そんな爽やかな風を一杯感じられるように一日も早く収束して終息することを願っています。

代表取締役 坂井美紀